

2020 年度レディース委員会主催第 3 回情報交換会実施報告

1 日 時・会 場	2020 年 10 月 31 日	14:00～15:20	日本スポーツマンクラブ
2 出席者	会場にて参加	19 名	
	リモートにて参加	31 ヲ所	

3 内 容

日本オリンピック委員会理事・筑波大学教授・講道館柔道女子七段

日本女子初の世界チャンピオン・ソウルオリンピック 52 kg 級銅メダル 山口香氏による講演

◎演題「柔道から学んだ生き方と自分の活かし方」

◎講演内容

○自己紹介

- ・1964 年生まれ 3 人きょうだいの次女 6 歳より柔道を始める。13 歳で初優勝
- ・筑波大学柔道部で初の女性部員、監督等「女性初」となる機会が多かった。

○女性のスポーツは Next Stage

- ・女性活躍推進には今、風が吹いている。吹いているうちに頑張ることが大切。
- ・自分で仕掛けるしかない。リアクションが大切。

○苦手なことこそ引き受ける

- ・自分が引き受けることで、その道に続く後輩が出てくる。
- ・結果を恐れずに挑戦する。

○姿勢良く凜として立ち、人の後ろに隠れない

- ・柔道で攻撃にも防御にも強い姿勢は自然体。
- ・考え方も同じで、常に自然体で人に接することで柔軟な対応が可能になる。

○女性が社会で活躍するためのポイント

- ・人と比べない。
- ・社会の求める基準に合わせようとしなない。
- ・女性は人脈を作ることが苦手。多様なネットワーク作りが大事。
- ・自分が楽しめる環境を作る。
- ・苦言を呈してくれる人、メンターをもつ。

○多様な人材を配置することが組織の発展に寄与する



◎参加者の感想

- ・講話の内容を改めて考えてみると、ついつい人と比べ社会の求めに合わせようとしている自分がいることに気づかされた。今日をきっかけに少し変われる勇気をもらった。「頼まれたら基本的には引き受ける！」この言葉も大事にしていきたい。貴重で有意義な講演でよかった。
- ・コロナ禍の中、開催の可否も随分と悩まれたと思うが、勇気ある決断に感謝。勢いのある現役の方、ましてやメダリストからの話を聞けるのは、関係者の人脈の広さと熱意と山口さんの切実な思いなのだなと思い、襟を正して拝聴した。何よりも山口さんの言う、「ロールモデル」が大切だといつも思っている。

・女性が組織の中に入っていくことを、自己満足ではないか、自分にどれだけできるか自信ももてずにいた。今まで役職や立場を依頼されたら、どうやって断ろうか、どうにか逃げられないかと避けることばかりを考えていたが、自分に与えられたチャンスだと、まずそこに飛び込んでみることも自分を成長させる機会になると前向きにとらえるようになった。「一人ひとりができることは小さいけど仕事と家庭を両立させながら、その輪を拡げて大きな大会を縁の下から支えられたことを実感し、自分たちの方向性は間違っていない」と一緒に講演を聞いていた人も話してくれた。

・リモートで講演を視聴し、男女お互いがより良い社会を形成していくことが大事と確認できた。JSAFの理事選出のみならず、それぞれの組織においても男女間が公平でよりよい社会を形成できるよう、長期的にシステム構築しなければと思った。

・まだ柔道が女性に開かれていない時代に男社会に飛び込んで勝ち進むのに実力は勿論、相当強い精神力だと思う。女性が社会で活躍するポイントもとても分かりやすかった。「行動を起こさなければ後悔する。」との言葉が胸に響いた。JSAFのチャイルドルームも女性だけのものではないとの意識は連盟内でも共有していきたい。

・先人が道を切り開いてくれたからこそ、今私たちが自由に楽しく活動できていることに改めて感謝した。どの競技も同じだと感じた。女性が集まって経験や意見を交換する機会は、新しい発見や考え方に気づかせてくれ、今後のスポーツ界発展に女性は欠かせないということを再確認することにつながった。「女性への風がいつまでも吹いてると思わないように」という言葉が印象的でスポーツ界だけでなく社会でも通じるフレーズだと思った。

・改めて女性活躍のために努力してきた先人への感謝や自分がやるべきことを考え直す機会となった。「スポーツは社会を映す鏡」という言葉が印象深かった。スポーツにおける女性の活躍が、その後の女性の社会進出を後押しした大きな要因になったと思う。セーリング界でも女性の活躍が進んでいるのは先人の努力あってのこと、その火を絶やさぬよう、できることを今後も考えて実行していくことが大事だと改めて感じた。

・ヨットハーバーで活動している生徒・学生から女性特有の悩みや相談を受けたり、成人の女性率が低かったりと、解決策が見つからない日々だが、自分の頃と比べてジェンダーについての認識が変わってきたと実感している。社会の多様性の重要さをより理解し、ロールモデルとなれるようこれからも努力していきたい。

・リモートで安心して参加できた。山口さんが柔道界で女性の地位を確立していく道のりは想像を絶するものだったと思った。セーリング界での女性の地位向上にも興味が湧いた。これからも女性の地位向上・参画の活性化を図るため、レディース委員会の活躍を期待する。

・具体例も多く分かり易くプロの講演と感じた。自分たちの言動、意識改革も必要と身にしみた。

◎講演会後、参加者から寄せられた質問と山口氏の回答

質問 ジェンダーイコールの社会実現のために男性に求められる役割やスタンスとは。

回答 多様性を進める社会の実現は、男女ともに、ポーズではなくその必要性を真に理解することが大切。妊娠・出産という女性にしか担えない役割がある以上、そのことでキャリア等にハンディが生じるのであれば、男性がそれを補うという認識をもってもらう必要がある。ジェンダーに関しては長い歴史や文化的背景があるので簡単ではないが、私も含めて近くにいる男性を一人でも二人でも意識を変えてもらえるように努力を積み重ねていくことしかない。

◎女性アスリートの先駆者というキャリアの山口氏の講演は期待以上の内容と反響でした。コロナ禍ということで、苦肉の策のリモート配信でしたが、全国から参加してもらえたことは今後につながる大きな成果となりました。